

平成25年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価 年度末

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	具体的 数値	数値目標					評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
						D	C	B	A	S			
1 学校運営の充実 ①校内各組織の連携を強化して機能的な運営を図り、よりよい学校づくりに努める。 ②家庭や地域、同窓会との連携を図り、地域に信頼される学校づくりに努める。 ③創立90周年記念事業を推進することにより、母校を誇りに思い、地域や社会の発展のために貢献しようとする態度を育てる。	PTA・同窓会と円滑な連携を図る。	渉外	PTA 総会への参加率が40%以上にする。	B	34.6%	～10	11 ～30	31 ～40	41 ～55	56% ～	参加率は34.6%であった。総会案内を保護者に手渡すように指導したが、目標に少しとどかなかった。	PTA総会や進路保護者会への参加は保護者の意識が重要であるので、その点に配慮した企画、運営をしてはどうか。 ホームページを更に充実させていきたい。 公開授業の来校者数増加には、中学校へのより明確な働きかけや、主要企画の工夫が有効であろう。	参加率がアップするように、あらゆる機会をとらえて呼びかけていく。
			進路保護者会への参加率が45%以上にする。	A	53%	～24	25 ～39	40 ～49	50 ～64	65% ～	1学年141名、2学年66名、3学年121名の参加者で、参加率は約53%だった。		次年度も保護者の知りたい進路情報の提供を行うとともに、学年を通じて積極的な参加への働きかけをお願いする。
	学校の情報を詳しく早く発信する。	情報・視聴覚	ホームページ更新ができる教職員の割合が80%以上にする。	A	85%	～49	50 ～69	70 ～84	85 ～94	95% ～	作業可能なスキルを持つと申告した教員は85%である。		技術を持つことと実際の更新量が連動していないので、次年度はさらなる情報発信を目指す。
			各部活・同好会のホームページ更新回数年間2回以上が40%以上にする。	B	36%	～10	11 ～30	31 ～40	41 ～55	56% ～	本年度の実績36%であった。柔道、陸上等10回以上の更新もあったが、0が13部であった。		新年度当初に顧問への更新作業などの講習会を実施し、情報更新の重要性を啓発したい。
中学校・保護者・地域との連携を取り、阿波高校のアピールに努め、入学希望者の増加を図る。	教務	公開授業(11月に本校で実施)の来校者数30名以上(昨年:13名)にする。	D	7名	～19	20 ～29	30 ～39	40 ～49	50名 ～	地域の方々に加え、平日では参加できない中学生等にも、本校を見学していただくことができたが、参加者数は7名にとどまった。	8月に実施した中学生体験入学参加者数が、昨年度の368名から438名へと大きく増加したことを参考に、実施方法、日程、周知方法等、再検討する。		
2 人権教育の推進 ①学校教育活動全体の中で人権教育に取り組み、人権尊重の精神の滋養を図る。 ②差別を見逃さない人権感覚と、自他を大切に育てる態度の育成を図る。	人権意識の高揚を図る。	人権	「人権ホームルームや映画会・意見発表会、講演会など人権に関する活動を通じて、人権意識が高まった」と思う生徒の割合が70%以上にする。	A	85.3%	～59	60 ～69	70 ～79	80 ～89	90% ～	人権問題への意識・関心が「とても高まった」「高まった」という生徒の割合は85.3%であり、昨年度の数値及び目標値を上回ることができた。	昨年度からの大幅な改善は評価できる。企画・行事だけでなく、日常生活における教師の生徒への声かけが重要であることをより認識し、実行していただきたい。	「とても高まった」という生徒の割合がよりいっそう増加するよう、人権行事・活動の項目や内容のさらなる見直しを行う。 また、事後指導の結果の活用や生徒の活動・表彰の周知を行う。そのために課会議や委員会などの積極的な活用を図る。
			研究授業・研究協議を7グループで8回以上で実施する。	A	8回	5	6	7	8	9回～	8回研究授業を行った。行事や多忙の仕事の間でやったが、充実した内容で先生方の努力が伺えた。	今後もしばしば細かい指導をお願いしたい。 図書室の雰囲気作りを工夫してみたい。	本年度は、OA機器を使用した授業が少なかったため、次年度は各授業で機器類を使用した授業に重点を置いて研究してもらうよう年度当初に案内したい。
3 学習指導の改善と確かな学力の向上 ①校内研修の充実や研究授業等により、教職員の指導スキルの向上に努める。 ②生徒の学習意欲を喚起するとともに、家庭での学習習慣の確立を図る。	ICTを活用する授業を研修・実施する。	情報・視聴覚	ICT利用授業を実施した教職員の割合が50%以上にする。	C	30%	～29	30 ～39	40 ～55	56 ～69	70% ～	ICTを部分的にでも教育活動に活用できる技術を持つと答えた教員は80%を超えるが、実施実態は30%程度。	教育機器等の整備とともにライブラリーの紹介などあらゆる面での環境整備を進めたい。	
	ICT活用に関する校内研修会を行う。		D	0回	0	1	2	3	4回～	プリント配布での情報紹介は2回行ったが、機材を使つての実習は行えなかった。	パワーポイントなどプレゼンテーションソフトへの関心が高いので、講習会実施を検討したい。		
	家庭学習時間の確保に努める。	進路	1年の家庭学習時間が2.0時間以上	B	2.1時間	～0.5	0.6～1.5	1.6～2.5	2.6～3.5	3.6時間～	1学年の平均は2.1時間、2学年は1.6時間、3学年は3.0時間だった。1、3学年が目標値を上回ったが2学年が目標値を下回った。	原則として毎日学習記録をとり、学習時間や家庭での生活習慣の把握に努め、個人面談等を通じて学習面や生活面の改善を促した。来年度は個人面談の一層の充実を図るなど、一人ひとりの生徒に応じたより細やかな指導を図る。	
			2年の家庭学習時間が2.5時間以上	C	1.6時間	～1.0	1.1～2.0	2.1～3.0	3.1～3.5	3.6時間～			
3年の家庭学習時間が3.0時間以上			B	3.0時間	～1.0	1.1～2.5	2.6～3.0	3.1～3.5	3.6時間～				
読書活動の充実を図る。	図書	図書館からの貸し出し冊数が1人当たり5.5冊以上にする。	C	4.2冊	～4.0	4.1～5.0	5.1～6.0	6.1～7.0	7.1冊～	貸し出し冊数は1人当たり4.2冊であった。活動計画は十分に実行できたにもかかわらず、冊数の増加につながらなかった。	朝の読書への評価は高いが、生徒と図書室との距離が遠い。授業での活用(図書を用いた課題、図書室での授業)などで、図書室に行く回数を増加させる。		

平成25年度 徳島県立阿波高等学校 学校評価 年度末

重点課題	評価項目	担当	評価指標	評価	具体的 数値	数値目標					評価サイクルの検証	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
						D	C	B	A	S			
4 生徒指導の徹底 ①面接等を通じて生徒一人ひとりの理解に努め、生徒の心に響く指導の実践に努める。 ②社会的な自立に向けて、基本的な生活習慣の確立、規範意識を向上させる教育の推進に努める。	遅刻防止指導の充実を図る。	生徒	遅刻者を1日平均8名以下にする。	A	8人	15～	14～ 12	11～ 9	8～ 5	4人～	目標をかろうじて達成することはできたが、昨年同様11月から遅刻者が増加した。	遅刻指導では生徒会など生徒とともに、指導する姿勢が必要であろう。多様な生徒の支援に外部機関の協力をいただき、今後も対処していただきたい。	遅刻指導週間を充実させるとともに、遅刻が5回以上の生徒には家庭に連絡して協力を得る。
	関係機関と連携し、学校不適應の予防につながる支援活動に努める。	相談	教員を対象とした巡回相談事業を活用した各学年ごとの特別支援研修会など、不適應生徒への支援につながる研修会を複数回実施する。	S	5回	0	1	2	3	4回	計5回実施。5月に先生方からの回答を参考に巡回相談を依頼。助言を元に学年研修会を実施し、3月には発達障害に関する職員研修会を実施した。		早期の巡回相談と学年研修会で先生方の共通理解は進んだが、より深刻な問題を抱える生徒への対応は校内だけでは難しい。来年度より、阿波サポステより定期的にサポートが得られるよう検討する。
5 進路指導の充実 ①キャリア教育を推進し、生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう支援する。 ②生徒個々の資質や適性に応じ、3年間を見通した段階的・系統的な進路指導を行い、生徒の希望する進路の実現に努める。	長期休暇を有効活用する。	進路	長期休業中の補習の内容に満足していると答える生徒の割合を75%以上にする。	C	61%	～49	50 ～69	70 ～79	80 ～84	85%～	補習の内容に満足すると答えた生徒の割合は61%だった。	3年生はよくがんばっていると感じる。今後もきめ細かな指導をお願いしたい。	各教科ごとに補習の内容を検討してもらい、内容面での更なる改善を図る。
	個々の資質や適性に応じた進路実現を図る。		A	86%	～54	55 ～74	75 ～84	85 ～89	90%～	望ましい進路意識をはぐくむための取り組み（進路講演会、進路HR活動、個人面談等）に満足した生徒の割合を85%以上にする。	「大変満足している」とする生徒の割合がより一層増加するように、進路HRの内容や面談のあり方等についての検討を加える。		
	国公立大学合格者数が70名以上にする。		D	44人 (3月14日)	～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80人～	AO入試、センターを課さない推薦、センターを課す推薦、前期日程の結果の合計は44名だった。	来年度以降の取り組みについては、今後の二次試験の結果もふまえてより詳細な検討を加える。		
6 特別活動の充実 ①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動、部活動など、望ましい集団活動を通して、豊かな人間性や自主的・実践的態度の育成を図る。 ②ボランティア活動の充実を図り、豊かな心を持つ地域に貢献できる生徒の育成を図る。	学業との両立を図りながら部活動の充実を図ると共に人間的資質の向上を図る。	特活	学習と部活動の両立ができた生徒の割合を70%以上にする。	B	67%	～54	55～ 64	65～ 74	75～ 84	85%～	学習と部活動との両立については67%の生徒ができていますと答えた。	阿波高校は勉強、部活、ボランティア活動等のバランスがよくとれていると感じる。 リーダー育成は容易なことではない。来年度の取り組みに大いに期待する。	本校の使命である文武両立が高いレベルで達成できるように、終了時刻の遵守やタイムマネジメントについて指導をする。
	部活動を通してより良い人間関係やたくましい精神力を身につけることができた生徒の割合を80%以上にする。		S	92%	～75	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90%～	部活動を行っている生徒は、精神力はもちろん、人間関係やコミュニケーション能力の醸成に効果があったと92%生徒が回答している。	各部の部長会を計画的に実施し、部の運営の仕方や清掃、成果をあげるための対策について話し合いの機会を設けてリーダーの育成をする。		
	清掃・ボランティア活動に積極的に活動させる。	D	60%	～75	75～ 79	80～ 84	85～ 89	90%～	自主的に清掃活動やボランティア活動に参加した生徒の割合は6割程度。	清掃活動やボランティア参加の意義について周知をはかり、自発的に参加できるよう指導する。			
7 環境教育の充実 ①地域と共に身近な環境美化に努め、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 ②節電・ごみ分別・リサイクル等に取り組み、実践的行動力の育成を図る。	「地球環境を守る日」を実施する。	環境 厚生	年間の参加生徒数を450名以上にする。	D	400名	350～ 400	401～ 450	451～ 500	501～ 550	551人～	回数を重ねる度、人数減少、延べ人数400名程度、予定の参加者まではかなり不足した。	校外の清掃では、地域の人とともに活動することができればよいと思われる。	次年度には、1回目から5回目まで色々な方法で情報や宣伝を流し各回100名以上を目指したい。
	ゴミを分別する。		B	75%	～69	70～ 74	75～ 79	80～ 84	85%～	達成率は75%。教室内は毎月の分別評価表の記録では、できているクラスが多かった。外回りはまだ分別ができていない場合がある。	一人ひとりがゴミを分別し、資源を大切にすることを高めるようゴミ分別表の記入の定着を呼びかけ、85%以上になるよう努力したい。		
8 防災教育の推進 ①学校防災体制の整備・充実に努め、災害時における実践力の育成を図る。	心肺蘇生法とAEDの使用法を身につける。	職員研修	教職員対象の心肺蘇生法の講習会を実施する。	B	1回	0	0	1	2	3回～	軌道確保、人工呼吸、胸骨圧迫の方法、AEDの使用法およびエピペンの使い方を予定通り実施。	1年生の授業で救急法を実施することを今後も続けて欲しい。防災訓練等の実施時期の見直しは、妥当であろう。	毎年実施する内容が新鮮なものになるよう、新しいものを取り入れたり工夫もこらし、楽しく参加できるようにしたい。
	防災計画について職員間で情報を共有する。	生徒	防災計画についての研修・防災訓練を年に3回以上実施する。	B	2回	0	1	2	3	4回～	消防署と連携し避難訓練は実施、雨天のため消火訓練を防災講話に変更した。		震災に対応した訓練内容に変更し、年度の早い時期に実施できるようにしたい。